

The background of the slide features a large, white, parabolic radio telescope dish mounted on a complex metal lattice structure. In the foreground, a large, reddish-brown sculpture of a lion is visible, partially obscuring the base of the telescope. The scene is set outdoors under a bright, slightly overcast sky with some clouds. The overall image has a soft, slightly faded appearance.

新データ解析ソフトの状況

本間 希樹
水沢VERA観測所

2006年の新体制

- グループリーダー
真鍋→(小林)→本間 に (2006年1月～)
- ソフト専任の専門職員
松下(2006年1月～)
- 研究員
Nicolas Pradel (2006年3月～)
- コアメンバー
本間、廣田、松下、官谷、倉山、
+ α (Pradel, 寺家, ...)

ソフトWGの目標

- AIPSとは別に、なるべく自動化された、なるべく客観性を持つ解析ソフトを持つ
- VERAの解析をルーチン的に流し、最終的には観測者にいきなりマップと位置が渡せる状況になるのが理想

2006年の目標

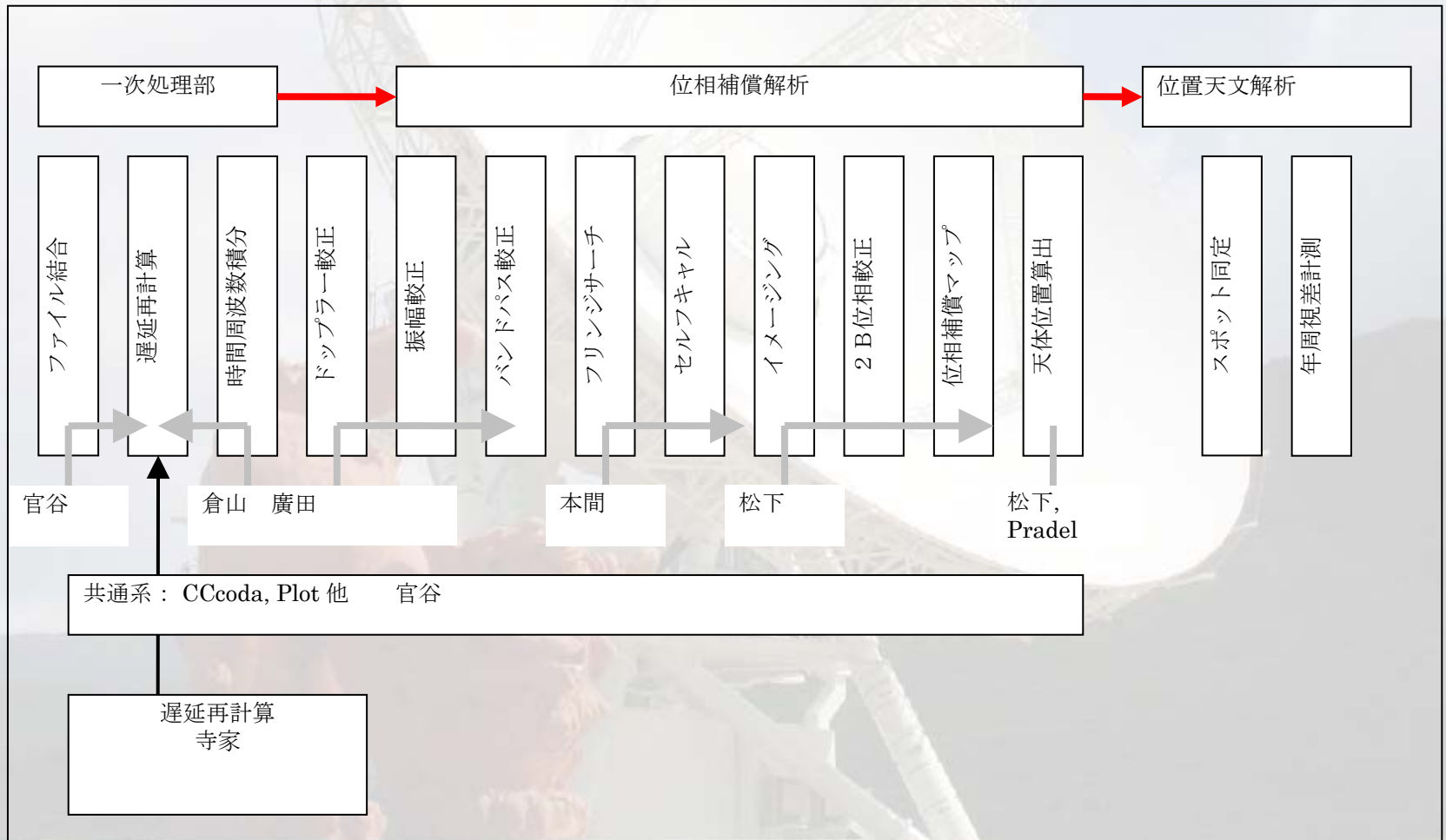
- 位相補償解析部のコーディング

(キャリブレーション、フリンジサーチ、
位相補償、イメージング、位置計測)

- 8月までに一次開通(パスを通す)を目指してコーディングを進めてきた

各コンポーネントの構成

全体を幾つかのコンポーネントに分割して担当

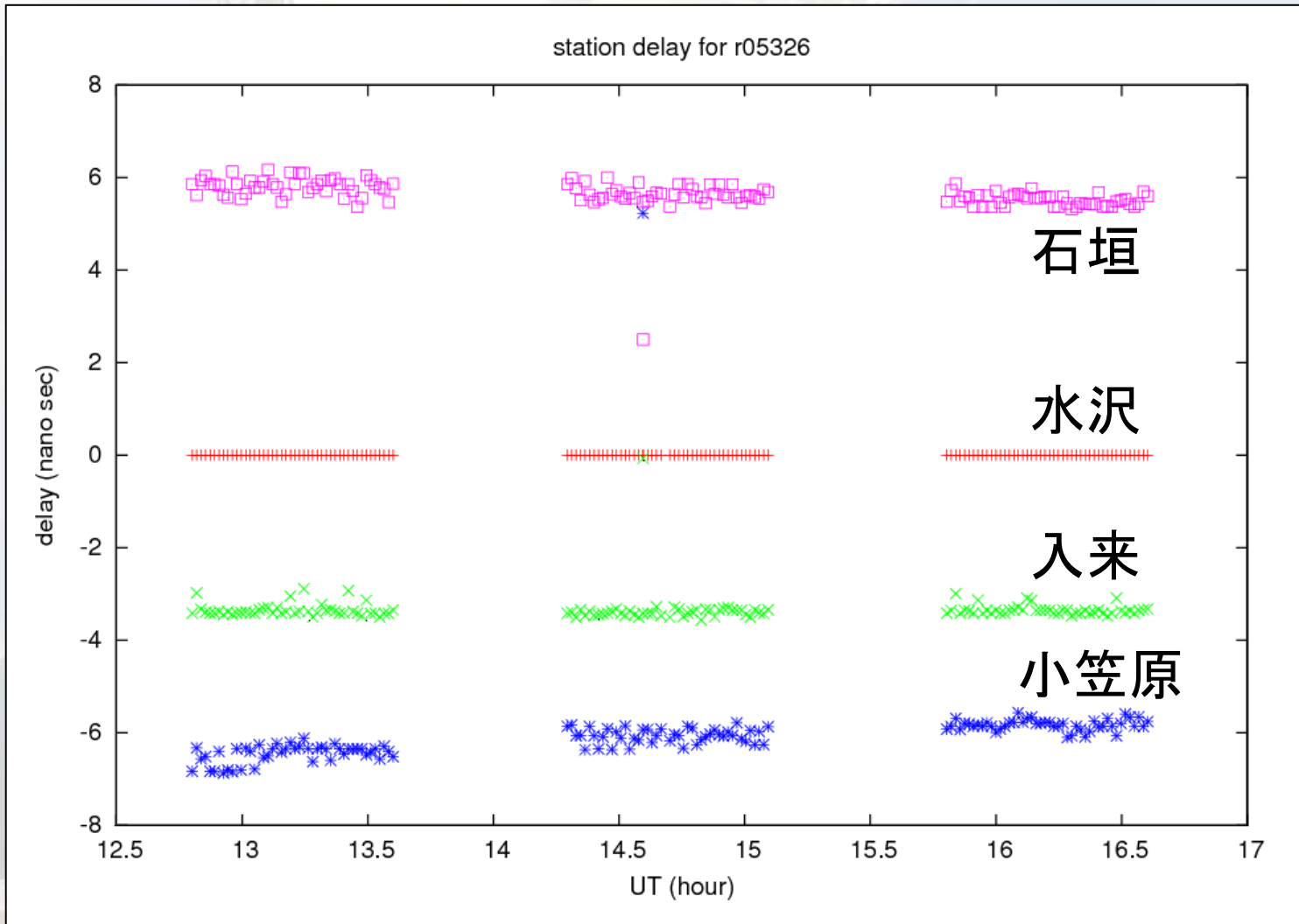


2006年の現状

- 9月頭に完成部についてレビューを行う
- 進捗度としては80%程度
- 未完部分のコーディングを急ぐ(ここ1ヶ月～2ヶ月の課題)

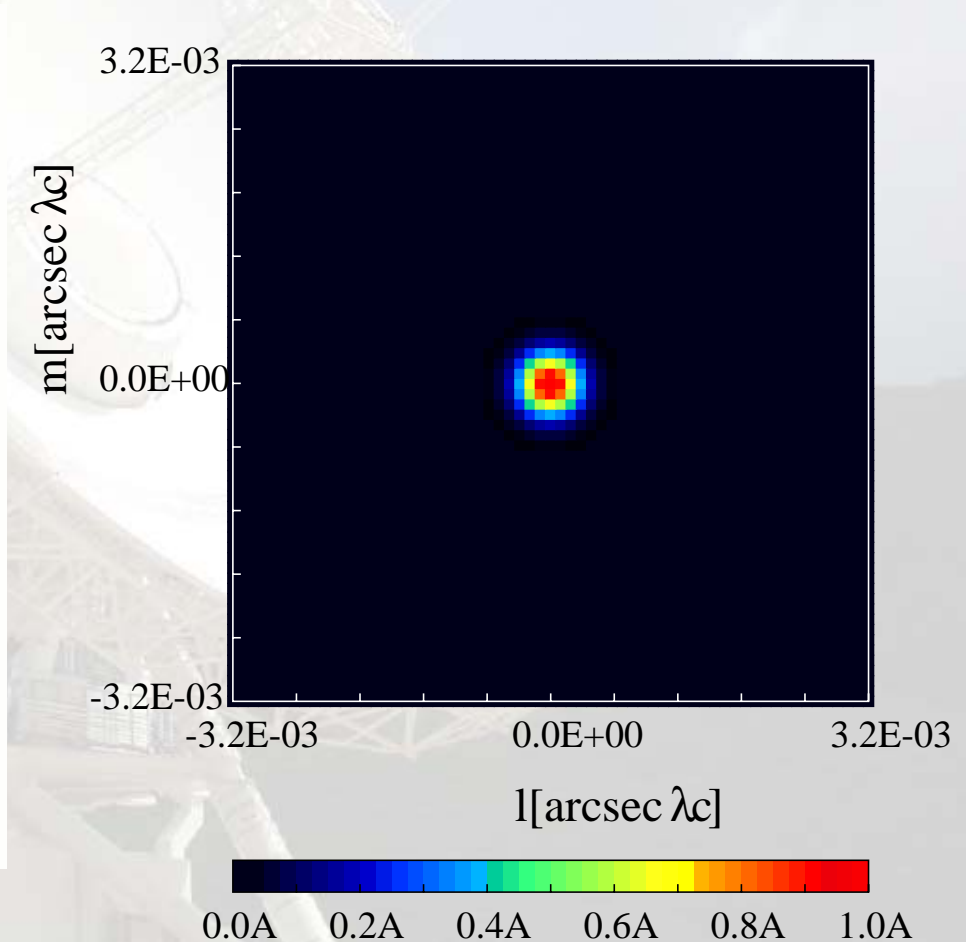
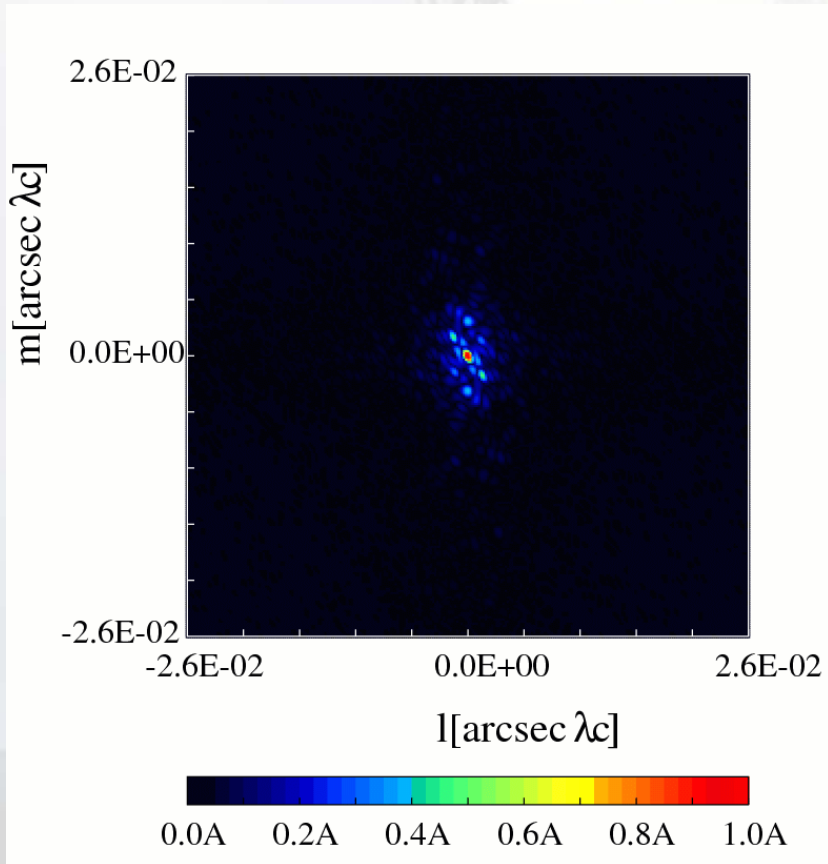
例1: フリンジサーチ

- r05326でのフリンジサーチ例



例2: イメージング

- ビームパターン(左)、CLEANイメージ(右)



($A = 3.53682E-02$)

今後の目標

2006年度末まで

- 未完部分のコーディング
- 全系を通じたデータ処理試験
- 精度検証(AIPSとの比較やQSOペアなど)、精度追求

2007年度

- 前年度分の残作業
- 位置天文解析(マルチエポック解析、年周視差と固有運動計測)